

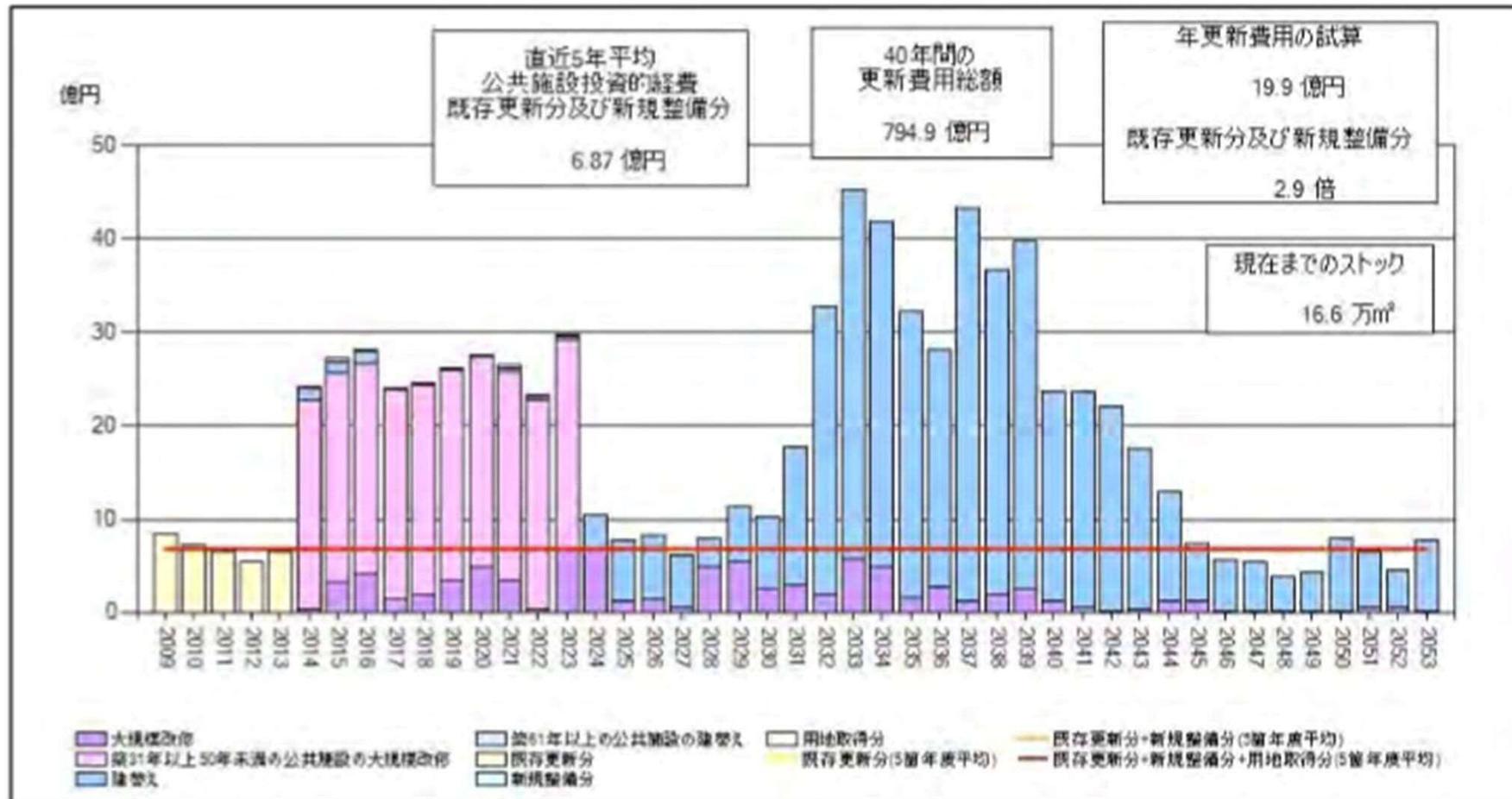
「公共施設マネジメント」

「拡充」から「縮充」への発送転換

東洋大学客員教授
南 学

「時限爆弾」としての公共施設

- 市民の生命と財産を脅かす「時限爆弾」
- 更新費用の財源が確保されていない



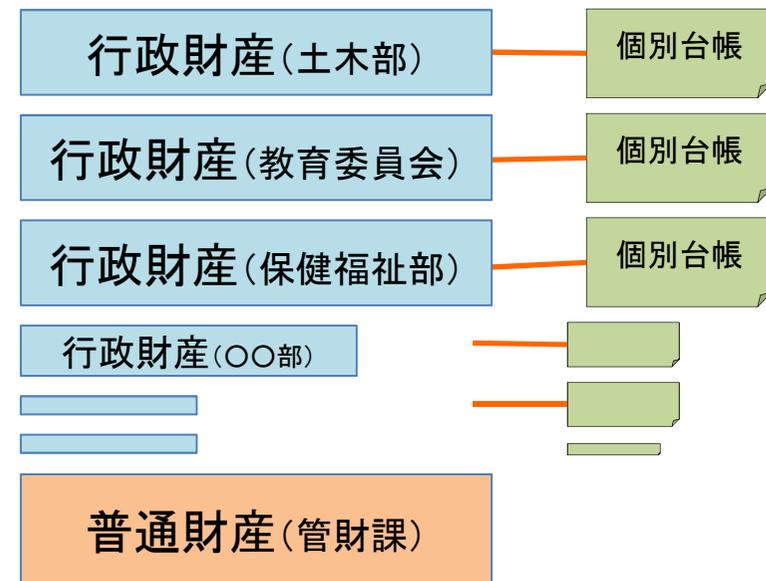
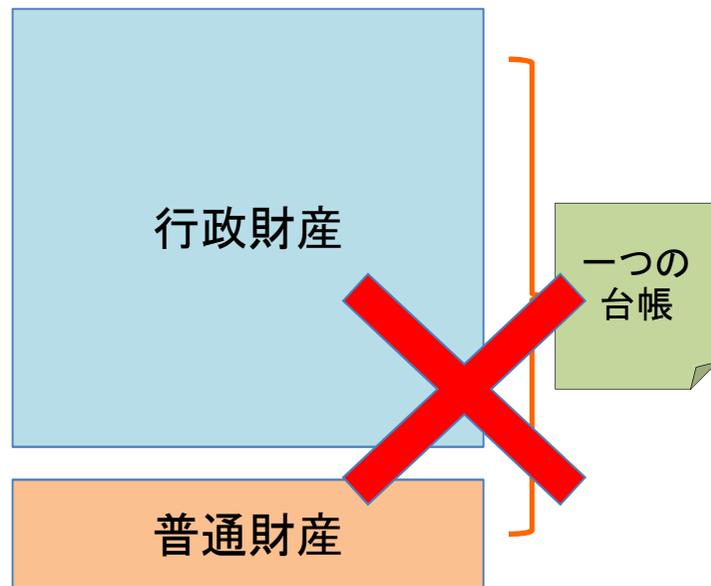
■ 修繕・更新費の将来見通し

公共施設管理上の業務上過失

- 平成18年7月、ふじみ野市大井プールで小学2年生の児童が給水口に吸い込まれ死亡するという事故が発生した。
- このプールの管理は民間事業者へ業務委託していたが、最高裁は市の担当職員業務上過失致死傷罪を確定した。
- 施設所有者は、業務上、観客等の安全を確保できる施設を提供する責務を負っている。

なぜ「公共施設総合管理計画」か

- 「公共施設」の縦割り構造
- 行政財産なので、条例で規定。担当部署も固定
- 全体の状況が見えにくく、変化にも対応しづらい



稼働時間は非常に少ない

学校施設の稼働率試算

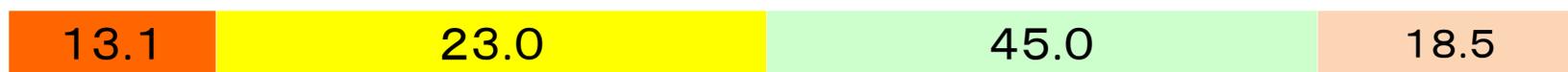
■ 月	10か月	80%
■ 週	5日間	70%
■ 日	7時間	30%

$$1.0 \times 0.8 \times 0.7 \times 0.3 = 0.168 (16.8 \%)$$

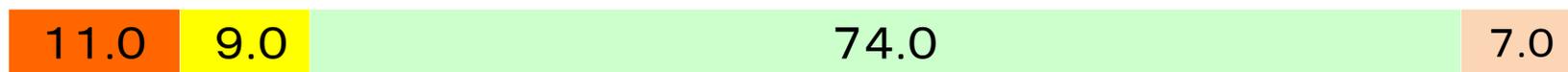
月に1, 2回以上利用 ほとんど利用しない 全く利用しない 無回答



新潟市



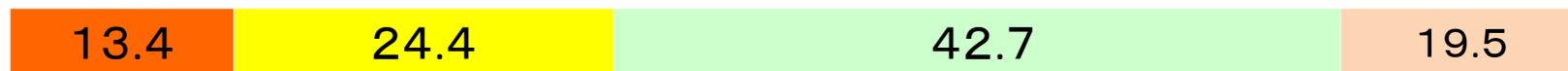
鎌倉市



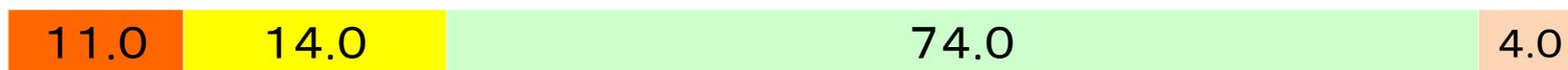
日光市



名古屋市



高松市



貸出登録率は20%程度

年に1回以上の利用はその半分程度

利用者の1割が9割の貸出を受ける

年30回以上は0.1%の事例も

貸出冊数よりも入館者数で評価

図書館機能は複数、利用は少数

- 10%前後の図書館利用者(年間30回以上は0.1%)
- 中心サービスは貸し出しと子どもへの読み聞かせ
- 暇つぶし? 調査研究? 交流? 自習?
- 専門図書は、県立や近隣市の図書館を活用
- 貸出、閲覧のみなら無人図書館や自動貸出返却機
- 美術館、博物館の「毎日開館」は必要か

台湾の「無人図書館」事業の活用

- * 2005年からスーパーの中に100㎡(32坪)ほどで、「智慧図書館(Intelligent Library)」として開設(10時から22時の開館、年中無休。1万人以上、7万冊以上の貸出)
- * 地下鉄構内では、6時から24時の開館で、約200㎡(60坪)
- * 松山空港駅にも開設。旅行書を中心に。
- * 公園内には、200坪で太陽エネルギー学習館と併設
- * さらに、ATMタイプの「Fast book 24小時借書站(24時間貸出ポイント)」も設置(中央図書館前にも)



繁華街の地下鉄駅構内の智慧図書館



空港の地下鉄駅構内の利用状況



市立図書館玄関前の自動貸出機

身近なスポーツは多目的室で

- 身近なスポーツに使いにくい体育館
- 人気は、ヨガ、社交ダンス、フラダンス、卓球
- プールとマシン、スタジオなら民間施設の活用
- 半田市成岩中体育館はスポーツクラブの運営
- 特定団体の利用が多い実態（負担は全市民）

公共施設マネジメントの「方程式」

$$\begin{aligned} \text{財源確保} &= \text{総面積の統廃合} + \text{民営化} \\ \text{(課題)} & \quad \text{(面積圧縮率)} \quad \quad \quad \text{(経費圧縮率)} \\ & + \text{受益者負担増} + \text{遊休資産活用} \\ & \quad \text{(受益偏在改善率)} \quad \quad \quad \text{(売却・貸付率)} \end{aligned}$$

単純な面積圧縮ではない(縮充で)

行政サービスの「ポートフォリオ」

限定された財源

||

福祉・医療
(介護・健保)

+

公共施設マネジメント
(縮充)

+

防災・防犯
(命と財産)

+

教育
(次世代への投資)

+

道路・上下水道料
(生活インフラ)

市民による選択肢が提起されている